

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4690100021
法人名	有限会社十匠
事業所名	グループホーム うすき
訪問調査日	平成20年3月27日
評価確定日	平成20年6月6日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

平成 20 年 4 月 2 日

【評価実施概要】

事業所番号	4690100021		
法人名	有限会社十匠		
事業所名	グループホーム うすき		
所在地	鹿児島市宇宿2丁目13番17号 (電話) 099-255-2835		
評価機関名	特定非営利活動法人のNPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成20年3月27日	評価確定日	平成20年6月6日

【情報提供票より】(20年 3月 27 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月27 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤11人, 非常勤4人, 常勤換算13人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	月18,000円 (600円/日 水道光熱費)
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(2月 20日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	1 名		
年齢	平均 81.6 歳	最低	65 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	上山病院・福元歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

幹線道路より少し入った工業団地の中にあり近くに大型スーパーや警察署、工場などが点在している。住宅や街の中に立地しているホームではないが、交代して間もない管理者は前管理者の意思を引き継ぎ、地理的な環境不足を職員と共にソフト面でカバーしようと努力や工夫を重ねている。思いをひとつにし利用者の人権を守り、傾聴に心がけ利用者の思いや意向に答えられるように日々のケアに邁進している。また、地域住民との交流や協力関係の構築を模索しながら独自のホームカラー作りを目指している。チームワークの良さと真摯な取り組みがなされ今後もケアの充実が期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念の明示は説明文書に明記されている。介護計画作成と見直しは職員の意見や気付きを反映した介護計画を作成し共有しながら、計画の遂行状況や効果を評価して見直しを行っている。日常の関わりの中で職員は利用者の尊厳を大切にし穏やかな声かけや態度で接し、利用者のペースで生活できるように支援している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価について管理者、職員は話し合い意義を理解し、評価に取り組んでいる。評価結果を踏まえて、改善に向けて検討や実践につなげている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は定期的開催されている。事業所の取り組み内容など報告し、意見や要望を受けサービスの質の向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	設置してある意見箱の中には意見や要望など殆んど入っていないが、面会時や運営推進会議などでは居室の臭いや職員異動の件などの意見が出されている。出された要望などはミーティングで話し合い運営に反映している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	敬老会、忘年会などの折にボランティア訪問がある。地域で開催される行事に参加しているが工業団地の中に立地しているホームのため近隣住民との交流は希薄である。利便性の悪さを職員などの工夫と努力で克服し、地域住民との交流や協力関係を構築する事が求められる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの意義と役割と重視した理念を開設時に職員と共に作成し日々のケアに活かしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時に理念を伝えている。毎朝理念の唱和を行っている。また、日々のケアの中で遭遇した場面などで話し合い共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会、忘年会などの折にボランティア訪問がある。地域で開催される行事に参加しているが、工業団地の中に立地しているホームのため近隣住民との交流は希薄である。		ホームが立地している地域の便利性の悪さを職員などの工夫と努力で克服し地域住民との交流や協力関係を構築する事が求められる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価について管理者、職員は話し合い意義を理解し評価に取り組んでいる。評価結果を踏まえて、改善に向けて検討や実践につなげている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的開催されている。事業所の取り組み内容など報告し、意見や要望を受けサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護利用者の件や介護保険更新時に事業所の課題などを市担当者に相談しながら協力関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話連絡時に担当者より日々の暮らしぶりや身体状況を報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	設置してある意見箱の中には意見や要望など殆んど入っていないが、面会時や運営推進会議などでは居室の臭いや職員異動の説明などの意見が出されている。出された要望などはミーティングで話し合い運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は個別ケアに努めながら全利用者に関わり、なじみの関係を築く努力をしているが、やむをえない事情により職員交替がある。		利用者家族などとの信頼関係を築くためにも、なじみの職員が対応する事の重要性を考慮し異動を少なくする取り組みが求められる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画書があり法人内勉強会や内部の勉強会に参加している。復命研修報告や研修報告をして職員は共有している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在関連事業所で行われる管理者のみの会議に参加している。他事業所との交流は行われていない。		他法人の事業者との交流や連携の必要性を認識し、職員が地域の同業者と交流する機会を作り、日々のサービスや職員育成に役立つ実践的な交流や連携に取り組む事が求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	居宅、病院からの入居の希望があった場合、面会して本人や家族などから思いや生活歴など聞いている。見学などの段階を経て本人が不安なく入居できるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として敬い、その人らしくを大切にしながら日々の暮らしの中で(食事の味付け、物の大切さ、もったいないの言葉や感謝の言葉など)利用者から励まされたり、教わったりするなど、学び、支え合う関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者と共に寄り添い身体状況や表情、行動を観察しながら、思いや意向を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の身体状況や希望、家族の要望をもとに職員と話し合い、気付きや意見を出しそれらを反映した本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な(3ヶ月、6ヶ月)見直しを行なっている。新利用者に対しては1ヶ月間は本人、家族などと意見交換を行い遂行状況や、効果を評価し本人、家族、職員と話し合いながら状況に応じた見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者それぞれの主治医との連携はもちろんのこと、緊急時にそなえ系列総合病院との連絡体制(ホットライン)も構築している。また、病院受診や特別な外出の支援など家族の希望や状況に応じて柔軟な支援をしている。		地域密着型サービスの特徴である家族の状況や個別の要望に沿って必要な支援を提供していくためには余裕を持った人員の確保が大切である。勤務シフト上も無理のないローテーション組みが求められる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望する医療機関と連携を取っており、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する家族などの意見、本人、医師との話し合いは行っているが、はっきりとした指針は定められていない。		重度化や終末期に対する対応指針を定めて、職員は重度化や終末期に対する方針の共有が求められる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常の関わりの中で職員は傾聴に心がけ、利用者の尊厳を大切にし穏やかな声かけと態度で対応している。職員採用時の誓約書もある。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、睡眠、入浴、食事、レクリエーションなど一人ひとりの体調や思いに配慮しながら利用者のペースで生活できるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は配膳、下膳、味付けなどできる方と一緒にいき、同じテーブルを囲んでサポートしながら楽しく食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3日の入浴日が決められているが本人や家族などの希望する入浴の支援に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習字、歌を唄う、菜園の植え付けや収穫、掃除、パソコンなど利用者の趣味や特技を発揮できるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩、スーパーへの買い物、足湯に行ったりドライブを兼ねて動物園や公園、花見に出かけるなど、ホームに閉じこもらない工夫をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は鍵をかけないケアを心がけており、なるべく見守りで自由な暮らしができるように努めているが、やむをえない場合の施錠については家族などの同意を得て施錠している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署員の指導により、昼間、夜間想定避難方法など訓練している。災害時の備蓄もされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量水分量を把握している。身体状況に合わせてトロミやおかゆ、キザミ食を提供している。		栄養バランス把握については協力病院の栄養士などに献立表を時々チェックしてもらい、栄養バランスなどのアドバイスをしてもらうことが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は明るく、ホールと和室があり、壁には入居者と楽しんだ行事ごとの写真や工作物が飾られている。ソファや椅子、野外のベンチの配置など行き届いて居心地良く過ごせる共用空間作りになっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具、洋服かけ、タンス、椅子、テーブル、仏壇、テレビ、パソコン、ラジオなどなじみの物品が持ち込まれ、個性的な居室づくりになっている。		